

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

社会的孤立・孤独の予防と 多様な社会的ネットワークの構築

2021年度 公開オンラインセミナー/募集説明会

2021年7月1日



科学技術振興機構

RISTEX  社会技術研究開発センター
Research Institute of Science and Technology for Society

プログラム目標

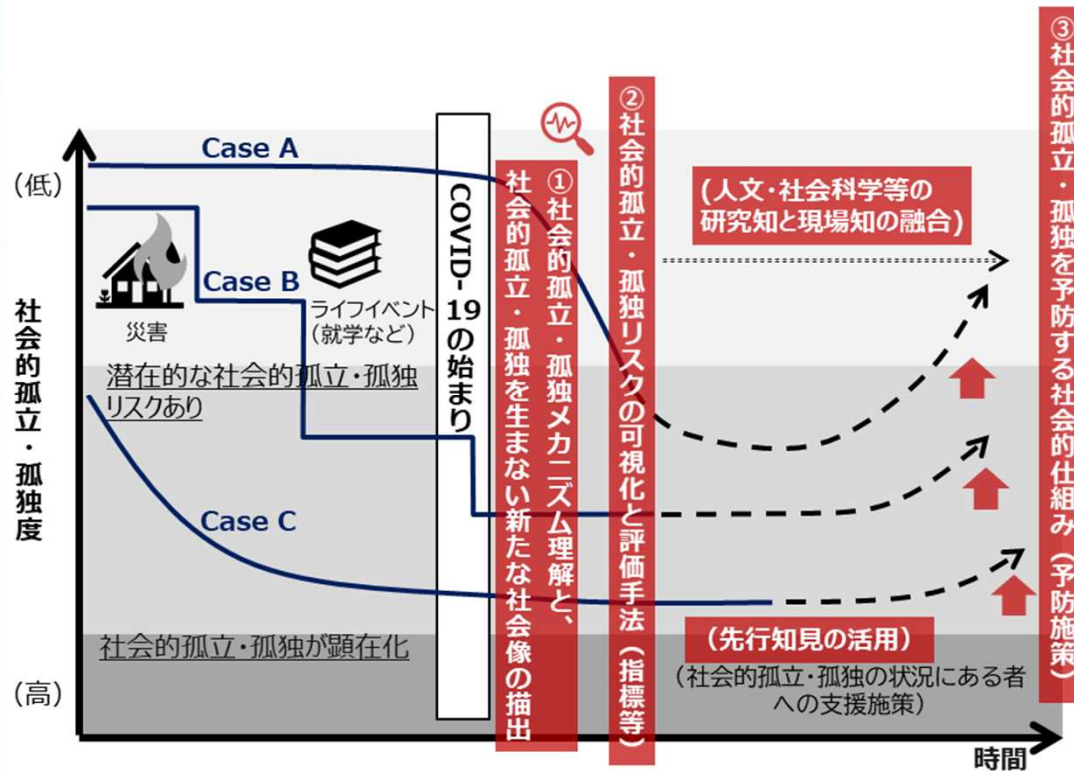
- 人口減少・少子高齢化、経済変動、新興感染症による影響など、様々な社会構造の変化を踏まえ、社会的孤立・孤独の**メカニズムを明らかにすると共に**、社会的孤立・孤独を生まない**社会像を描出し**、人や集団が社会的孤立・孤独に陥る**リスクの可視化や評価手法(指標等)**、社会的孤立・孤独を**予防する社会的仕組み**の研究開発を推進。
- その際、開発した評価手法(指標等)に基づいた社会的孤立・孤独の予防施策の効果検証を含め、**PoC (Proof of Concept:概念実証)**までを一体的に行う。
- 本プログラムの実施を通して、人・組織・コミュニティ間の多様な社会的つながり・ネットワークを実現し、**社会的孤立・孤独を生まない社会の創出**を目指す。

2021年度は、全ての提案について
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の社会的影響を踏まえたものを募集

対面による直接的なコミュニケーションが困難になり、想定外の物理的な分断への対応が迅速かつ十分でないあらゆる場面で、社会的孤立・孤独の顕在化・深刻化。
これまで社会的孤立・孤独から無縁だった人や集団も社会的孤立・孤独に陥るリスクが高まっています。

ウィズコロナ・ポストコロナの社会における望ましいつながり・ネットワークのあり方を追求し、これを積極的に構築していく必要があります。

研究開発要素①②③の一体的推進



① 社会的孤立・孤独メカニズム理解と、社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像の描出

人や集団の行動、心理、社会的背景の検証から、どのようなメカニズムによって社会的孤立・孤独が生じるのか、社会的孤立・孤独の状況にある者の視点も考慮した社会のあり方を分析します。その結果を基に、**予防すべき社会的孤立・孤独を明確にする**と共に、**社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像を描出**します。

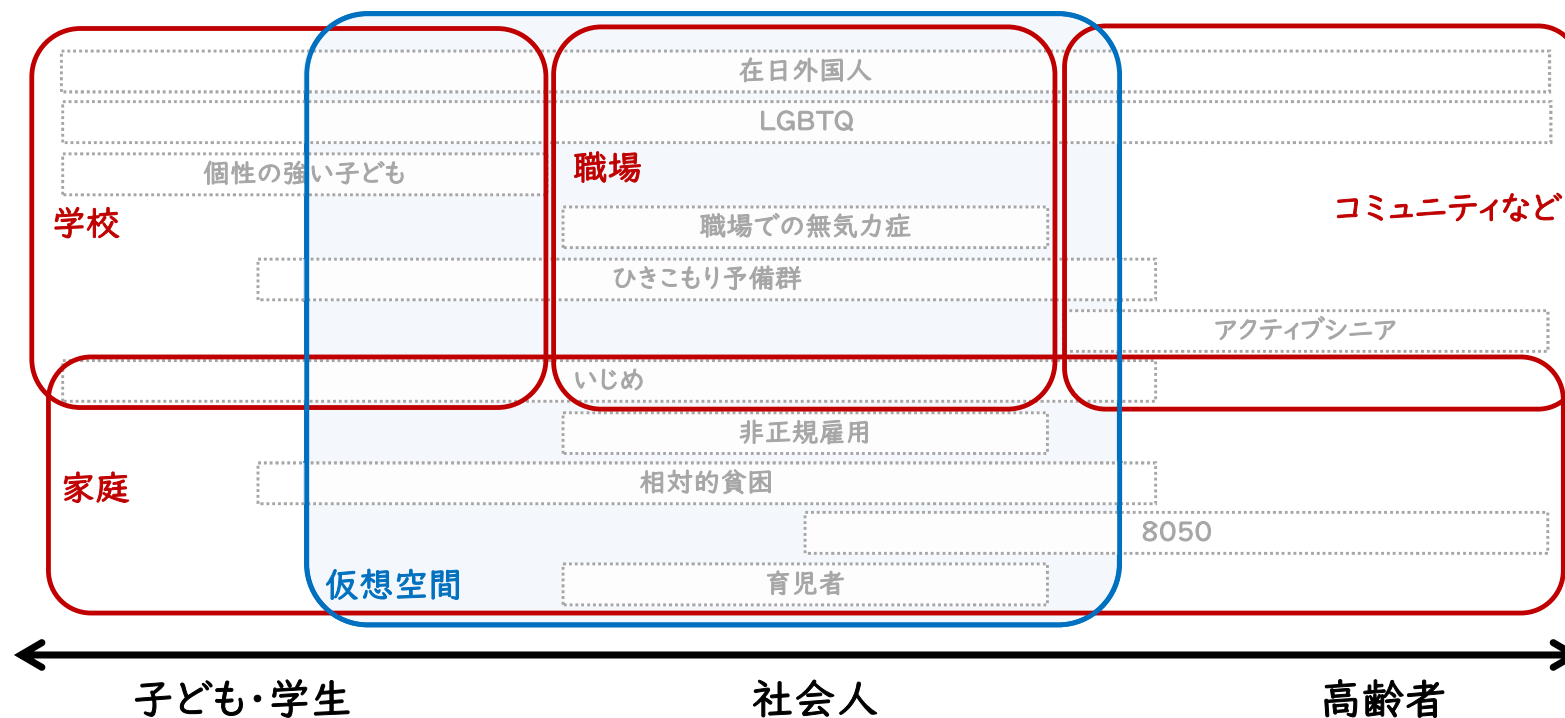
② 社会的孤立・孤独リスクの可視化と評価手法（指標等）の開発

①で描いた社会像の実現に向け、まず人や集団が社会的孤立・孤独に陥る**リスクを早期にとらえるための可視化や評価手法（指標等）**を研究開発します。

③ 社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組み

社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組み（予防施策）を開発し②で開発した社会的孤立・孤独リスクの可視化・評価手法（指標等）に基づいた**評価・実証を、国内の特定地域や、学校、職場、コミュニティなどを対象に行います。**

本プログラムにおける課題例ポータルフォリオ



本プログラムにおいては、すでに顕在化している社会的孤立・孤独に係る先行知見も活用しながら、横断的な観点から社会的孤立・孤独の予防施策の実現を目指します。

なお、本図に記載されていない社会的孤立・孤独に関する提案や、本図とは異なる視点での提案も十分想定されます。

マネジメント体制

■プログラム総括

浦 光博

(追手門学院大学 教授)



■プログラムアドバイザー

有末 賢

(亜細亜大学都市創造学部 教授)

石井 光太

(作家)

稲葉 陽二

(元日本大学法学部 教授)

岩田 正美

(日本女子大学 名誉教授)

工藤 啓

(認定NPO法人育て上げネット 理事長)

平田 オリザ

(芸術文化観光専門職大学 学長)

藤原 佳典

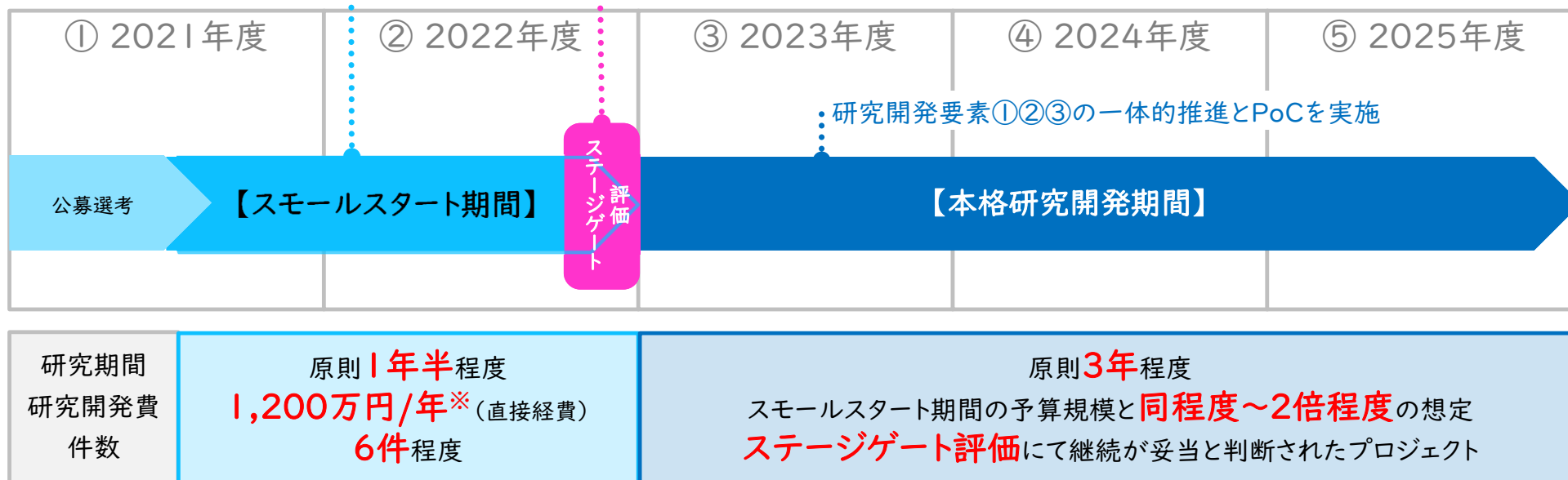
(東京都健康長寿医療センター研究所
社会参加と地域保健研究チーム チームリーダー)

※R3年6月時点
今後アドバイザーを追加予定

研究開発期間・規模

研究開発要素①②③の一体的推進とPoC実施に向けた道筋を確実なものとするため、新しい社会像の実現に向けた構想の策定や施策現場との接続などの体制構築の強化等を推進

研究開発要素①②③の一体的推進する体制の整備状況やプロジェクト目標達成の観点から、研究開発の継続の妥当性を判断



※2021年度に関しては、11月から研究開発開始想定ですので、年度末(3月)までの5ヶ月間の経費計上となります。

スモールスタート期間に取り組むこと

- 研究側と施策現場側それぞれのニーズや課題の相互理解に基づき、**研究開発要素①②③をPoCまで一体的に推進する計画**の具体化
- PoCの実施を含め、プロジェクトの目標達成に対する**ボトルネックの解決へ向けた道筋**の明確化
- 研究開発要素①②③を一体的に推進するために、人文・社会科学や自然科学の研究者並びに施策現場など**社会の多様な関係者が協働する体制の構築**
- PoC実施のために、開発した社会的孤立・孤独の予防施策等の効果を、国内の特定地域や、学校、職場、コミュニティなどの**施策現場で実証できる仕組みの整備**
- 研究開発成果が将来もたらし得る**インパクト**(学術的・公共的価値の創出、現在および将来の社会・産業ニーズへの貢献、国内外の他の分野・地域への波及・展開など)の**描出**

提案および研究開発にあたっての留意事項

- 研究開発要素①②③を一体的に実施するためには、研究側と施策現場側の乖離を埋めて、研究と実践を同時進行し、施策現場から得られた様々な知見を、制度・社会デザインにつなげていく社会実装のための研究が必要です。そのため、**本格研究開発開始時まで、研究側、施策現場側（研究成果の利用者）双方がプロジェクトに参加することが望まれます。**
- 人文・社会科学と自然科学の**分野横断的な知見や、顕在化した孤立者への支援施策等に係る先行知見を活用し、ハード・ソフト両面からの包括的、総合的な研究開発を促進することを期待します。**
- 研究開発の終了後も発展的な取組が継続的に行われるために、**地方自治体、NPO、教育機関などの関係機関との連携を研究開発の初期の段階から十分に行うことが重要です。**
- 研究対象、研究の手法や前提条件、技術開発におけるデザインなど、研究開発のあらゆる側面において**ジェンダーをはじめダイバーシティの視点**に配慮することとします。
- 本プログラムの掲げる課題は国内のみにとどまらず、現在・将来的に海外も同様な課題があることから、**海外の知見・フィールド・人的資源の活用など海外との協働**を対象とした提案も推奨します。ただし、**開発した社会的孤立・孤独の予防のための社会的仕組みは国内の特定地域や、学校、職場、コミュニティなどの施策現場で実証する必要があります。**

選考スケジュール



■ e-Rad (府省共通研究開発管理システム) について

【詳細は公募要領をご確認ください】

- ・応募はe-Radを通じて行っていただきます。
- ・募集締切間際は混雑するため、**時間的余裕を十分とって、応募を完了**してください。
- ・募集締切時刻以降の**提案の取下げ処理はできません**。
- ・募集締切までに**応募手続きが完了していない提案**については、**いかなる理由があっても審査の対象とはいたしません**。
- ・JSTは、募集締切時刻までに発生する提案書の不備についての一切の責任を負いません。
従って、募集締切時刻までに、**JSTは提案者に事前確認の上での提案書の訂正**
もしくは**提案者に対する訂正依頼行為の一切を行わない**ことにつき、予めご承知おきください。

その他

【詳細は公募要領をご確認ください】

■重複応募について

- 1人の方が**研究代表者**として応募できる提案は、**1件のみ**です。
- 本年度公募している**RISTEXの4プログラムに重複**して応募できません。
- 現在、RISTEXの研究代表者は応募**できません。
(当該研究開発の実施期間が2021年度内に終了する場合を除く。)
- 他の戦略的創造研究推進事業(CREST、さきがけ、ACT-X)と重複して応募することはできます。

■利益相反について

研究代表者と「**研究代表者に関係する機関**」との間の利益相反について、当該関係の**必要性、合理性、妥当性等**を考慮して適切に判断します。

<研究代表者に関係する機関>

- a. 研究代表者等の**研究開発成果を基に設立**した機関。
(直接的には経営に関与せず技術顧問等の肩書きを有するのみの場合、株式を保有しているのみの場合を含む。)
- b. 研究代表者等が**役員**(CTOを含み、技術顧問を含まない)**に就任**している機関。
- c. 研究代表者が**株式を保有**している機関。
- d. 研究代表者が**実施料収入**を得ている機関。

※a及びbについては研究代表者のみではなく、研究代表者の**配偶者及び一親等内の親族**についても同様に取り扱います

みなさまのご応募をお待ちしています。

提案〆切 : 2021年7月20日(火)正午
問合せ先 : boshu-koritsu@jst.go.jp

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム
「社会的孤立枠」募集担当
(科学技術振興機構 社会技術研究開発センター)